

水稻生育情報 (No.2)

平成 30 年 6 月 11 日
 県西農林事務所 経営・普及部門
 (筑西地域農業改良普及センター)
 TEL:0296-24-9206

【生育概況】

6 月上旬の気温は平年より 2℃程度高く、日照時間は長くなっています。生育状況は調査地点により差が出ています。

表1 水稻定点調査結果 (6月8日現在)

調査地点	田植え日 月/日	植付株数 株/坪	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色	
					葉色版	SPAD値
筑西市	5月2日	58	38.8	358	4.6	39.9
一本松	(5月2日)	(60)	(44.7)	(587)	(4.9)	(41.6)
下妻市	4月30日	47	45.2	530	4.8	40.9
加養	(5月2日)	(48)	(43.7)	(501)	(5.0)	(41.7)
桜川市	5月25日	55	24.2	206	3.8	31.0
元岩瀬	(5月13日)	(60)	(33.4)	(310)	(4.5)	(40.1)
桜川市	5月7日	52	35.4	397	4.8	41.4
真壁町飯塚	(5月5日)	(54)	(36.3)	(408)	(4.6)	(40.2)

()内は平成25～29年 (5ヵ年平均値)

【これからの栽培管理のポイント】

- 中干し開始時期を迎えているほ場があります。
 分けつ盛期になると茎数は急激に増えるので、中干しの適期を逃さないようにしましょう。

• イネ縞葉枯病について

県西地域においてイネ縞葉枯病の発生が拡大しています。この病気は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。発病した後の治療方法はありません。

ウンカは6月上旬頃に水稻に飛来しますが、その際、ウイルスを保毒したウンカがイネを吸汁することで、イネが病気に感染します。保毒していないウンカが感染株を吸汁することで、新たにウイルスを保毒し、この繰り返しで被害が拡大します。

感染すると葉が縞状に黄色くなり、分けつ期には葉先がこより状に垂れ下がり枯死します(写真1)。また、枯死しなかった茎でも正常に出穂しなかったり不稔となるため減収します。

• イネ縞葉枯病の防除について。

県病害虫防除所から5月25日付で注意報が発表され、県西地域で本病の発生が多くなることが予想されます。ウンカ類に登録のある育苗箱施薬を行わなかった場合は、本田防除を行いましょう。特に、昨年被害が大きかった地域では、育苗箱施薬と本田防除を併せて行うことが望ましいです。

なお、本年はヒメトビウンカの発生が早く、本田での防除適期は6月9～16日頃です。

防除方法や薬剤等に関してご不明な点がございましたら、普及センターかお近くのJA各支店にお問い合わせください。



写真1 イネ縞葉枯病の症状